

地域づくりのための助成事業活用シンポジウム 報 告 書

平成 30 年 10 月 12 日

地域づくりのための助成事業活用シンポジウム実行委員会

目 次

要約	・・・・・・・・・・・・・・・・	1 p
I シンポジウムの概要	・・・・・・・・・・・・・・・・	2 p
II 実施状況	・・・・・・・・・・・・・・・・	3 p
資料		
1. シンポジウム企画書	・・・・・・・・・・・・・・・・	5 p
2. アンケート調査（参加者）	・・・・・・・・・・・・・・・・	8 p
3. アンケート調査（実行委員会）	・・・・・・・・・・・・・・・・	15 p
4. 写真記録	・・・・・・・・・・・・・・・・	22 p
5. 当日配布プログラム	・・・・・・・・・・・・・・・・	26 p

－ 要 約 －

「地域づくりのための助成事業活用シンポジウム」は、県内で助成事業を行っている 14 団体が合同で説明会を開催することにより、助成事業の普及活用を図るとともに、助成団体間の情報交換を行うことで助成事業のより一層の発展を図り、以て地域の振興・活性化に寄与することを目的に企画された。

シンポジウムは平成 30 年 7 月 8 日（日）に沖縄県総合福祉センター「結いホール」で開催され、午前は助成団体間の意見交換、午後は地域づくり団体向けのシンポジウムと相談会を行い、午前・午後を合わせた参加者数は 132 名であった。

午前のセッションでは、公益財団法人地域創造基金さなぶり専務理事兼事務局長の鈴木祐司氏からの講話と参加団体間のグループ討論を行った。

午後のシンポジウムでは、「助成金を出す立場から、助成金を活用する皆さんに伝えたい 5 つのこと」と題する鈴木氏の講話と、助成金を出した団体と助成を受けた団体とのペアで 3 つの事例発表を行った。また、事例発表の後は、参加団体が個別ブースを設け相談会を行った。

参加者アンケート（回収率 28%）では、内容について約 9 割が「大変よかった」又は「良かった」と回答し、「助成事業を利用してみたい、応募しやすくなった」と答えた回答者も 9 割と、満足度は高かった。

シンポジウム後に行った実行委員会メンバーへのアンケート（回収率 64%）では、シンポジウムについて「良かった」又は「大変よかった」と回答したのがほぼ全数となり、次年度以降もこのようなイベントを開催することについて 9 割近くが「意義がある」との回答であった。

9 月 7 日に開催した実行委員会では、シンポジウムを振り返り意見交換し、アンケートの結果も踏まえ、①報告書を作成すること（本編）、②ガイドブックを増刷すること、③継続開催に向けた協議を進めることを確認した。

シンポジウムの開催経費は 22 万円で、沖縄県地域づくりネットワークが一般社団法人地域活性化センターの助成金を活用し負担した。

I シンポジウムの概要

1. 目的

NPO や地域づくり団体の自主的な活動を支援する助成事業を行っている県内の団体が、合同で説明会を開催することにより助成事業の普及・活用を図るとともに、助成団体間の情報交換を行うことで助成事業のより一層の発展を図り、以て地域の振興・活性化に寄与することを目的とする。

2. 開催日、場所

平成30年7月8日（日） 10:00～17:00

沖縄県総合福祉センター 結ホール（那覇市首里石嶺町4丁目373-1）

3. 内容

セッション1：助成団体間の意見交換会（13 団体、40 名参加）

10:00-13:00（ランチ含む）

セッション2：地域づくり団体向けシンポジウム（132 名参加）

13:00-16:00

- ・基調講演「助成金を出す立場から、助成金の活用する皆さんに伝えたい5つのこと」

鈴木祐司さん（公益財団法人地域創造基金さなぶり 専務/事務局長）

- ・事例紹介と助成団体の助成事業紹介

セッション3：個別説明会（14 団体ブース設置）

16:00-17:00

各団体がブースを設けて名刺交換と個別相談を実施

Ⅱ 実施状況

1. 助成団体間の交流・意見交換（10:00-13:00）

県内の助成機関の研修、交流・意見交換を目的に午前中のセッションが行われた。

はじめに、公益財団法人地域創造基金さなぶり専務理事兼事務局長の鈴木祐司氏から「沖縄にある助成機関だからこそ沖縄の未来のためにできることを」と題し講話頂いた。助成団体の何を支援するのか、助成機関同士の連携など助成金や助成機関が考える基本的役割について理解を深める講話となった。

次に、各参加者が6グループに分かれて活動紹介とワークショップを行った。各グループでは今後3年間に目指す取り組みや、各団体の分野に特化したトピック等様々な意見交換が行われた。これまで県内助成機関同士の交流会等が無かった為、他機関の助成情報を知る良い機会となった。

2. 地域づくり団体向けシンポジウム（13:30-16:00）

午後のシンポジウムでは、沖縄の地域づくりのために、地元の助成団体とNPOや地域づくりに取り組む団体とが会う合同説明会として開催された。

基調講演には、午前中に引き続き鈴木祐司氏から「助成金を出す立場から、助成金の活用する皆さんに伝えたい5つのこと」と題し講話頂いた。民間の助成金とは、どういう資金なのか？民間の助成金を出す立場の視点とは？何に気を付けて申請書を作成するとよいのか？「伝えたい5つ」とは？など、助成金を出す側、助成金を活用する側どちらの視点にも立ちながら、沖縄の地域と未来をさらに豊かにするために、民間の助成金の活用方法について講演いただいた。

また、助成事業団体がホストとなり、助成を受けた団体をゲストに迎え、助成事業の紹介と助成金を受けて行った取り組みの概要を照会した

（1）琉球銀行 りゅうぎんユイマール助成金 ＋ 子ども応援団 笑びん

株式会社琉球銀行りゅうぎんユイマール助成会からは、地域貢献室の宮城智子さんが、ホストとなり、沖縄市パークアベニュー内で制服のリユース活動に取り組んでいる森田好美さんをゲストに発表を行った。

宮城さんからは、りゅうぎんユイマール助成会の助成事業は、沖縄県内において県民のための社会福祉活動、環境保全活動を実施している個人・NPO法人ならびに諸団体を対象に助成金を提供しているとの紹介があった。

子ども応援団 笑びんの代表を務める森田さんからは、助成金を活用して、制服のリユースに必要なミシン・アイロンや子供たちが利用しやすいような店舗づくりに必要なラジカセ等を購入し、日々の活動に頑張っている事について発表があった。

(2) 公益財団法人沖縄県文化振興会 + 株式会社 TEAM SPOT JUMBLE

公益財団法人沖縄県文化振興会からは、チーフプログラムオフィサーの野村政之さんがホストとなり、演劇ワークショップを活用した社会的課題への取り組みを行っている喜舎場梓さんをゲストに発表を行った。

野村さんから、「沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業」では、沖縄県内で文化芸術に取り組む諸団体を対象に、文化芸術活動の運営基盤強化、享受者拡大、文化芸術を活用した地域の課題解決に資する取り組みを支援していると紹介があった。

株式会社 TEAM SPOT JUMBLE でマネジャーを務める喜舎場さんからは、教育、離島・地域づくり、社会福祉、企業研修など各領域での活動概要と、本部町の高校、障害者施設で行った取り組み、その後の波及効果に関して発表があった。

(3) 公益社団法人沖縄県地域振興協会 + 一般社団法人羽地ネットワーク

公益社団法人沖縄県地域振興協会からは、地域活性化推進員の西銘史則さんがホストとなり、名護市羽地集落で地域づくりに取り組んでいる運天琴乃さんをゲストに発表を行った。

西銘さんからは、協会の「地域活性化助成事業」は、様々な地域づくり活動を支援する助成事業で、NPOや自治会、任意団体に加え、PTAも活用しているとの紹介があった。

運天さんが理事を務める一般社団法人羽地ネットワークでは、古民家を改修した宿泊事業やカフェを運営する中、協会の助成事業を活用し、地域住民がつくる集落周辺の散策ガイドマップを作成しており、今後も地域の方々と協力しながら羽地地区の魅力を発信していきたいとの発表があった。

(4) 情報提供

トヨタ財団から、同財団の助成プログラム「しらべる助成」「そだてる助成」について、公益財団法人助成財団センターの田中皓専務理事から、同財団が HP で公開している助成金情報についての紹介があった。

3. 個別説明会 (16:00-17:00)

助成団体会場の周囲に 14 の個別ブースを設け、助成を受けたい団体がそれぞれ自由に相談を受ける形式で相談会を行った。ブースでは、名刺交換、助成事業の内容、金額、申請の時期、助成を受ける資格などの個別相談に担当者が対応した。1 時間の相談時間内で、3～8 団体程度の相談があるブースもあり、概ね好評を得た。人気のある団体は複数の相談対応者を配置する等の工夫が必要かもしれない。

「地域づくりのための助成事業活用シンポジウム」企画書

平成30年5月31日

実行委員会申し合わせ

1. 目的

NPO や地域づくり団体の自主的な活動を支援する助成事業を行っている県内の団体が、合同で説明会を開催することにより助成事業の普及・活用を図るとともに、助成団体間の情報交換を行うことで助成事業のより一層の発展を図り、以て地域の振興・活性化に寄与することを目的とする。

2. 内容

シンポジウムは以下の3セッションを行い、実行委員会に参加する各団体から、NPO、地域づくり団体及び市町村等へ参加を呼びかける。

セッション1：助成団体間の意見交換会

10:00-13:00 (ランチ含む)

セッション2：地域づくり団体向けシンポジウム

13:00-16:00

- ・基調講演「助成金の基礎を知る（仮）」

鈴木祐司さん（公益財団法人地域創造基金さなぶり 専務/事務局長）

- ・事例紹介と助成団体の助成事業紹介

セッション3：個別説明会

16:00-17:00

各団体がブースを設けて個別相談を実施

3. 開催時期

平成30年7月8日（日） 10:00から17:00

4. 場所

沖縄県総合福祉センター 結ホール（那覇市首里石嶺町4丁目373-1）

5. 実施体制

- （1）別添の団体で構成する実行委員会により実施する。

- (2) 実行委員会の世話役を行う幹事団体は、公益社団法人沖縄県地域振興協会とし、シンポジウム開催に必要な作業を各団体が分担する。
- (3) シンポジウム終了後に、今後の取り組みを協議する会議を行う。
- (4) 実行委員会の活動期間は、平成30年5月21日から平成30年12月28日までとする。

6. 費用負担

シンポジウム開催に必要な費用は助成金を活用するものとし、それ以外の経費が必要となった場合は実行委員会で協議する。

7. その他

この企画書を、実行委員会参加団体間の「申し合わせ」として、シンポジウムを実施する。

別添

おきなわアジェンダ 2 1 県民会議

沖縄銀行

沖縄県地域づくりネットワーク

沖縄子どものみらい県民会議

沖縄ろうきん

公益財団法人沖縄県文化振興会

公益財団法人みらいファンド沖縄

公益社団法人沖縄県地域振興協会

コープおきなわ

社会福祉法人沖縄県共同募金会

社会福祉法人沖縄県社会福祉協議会

琉球銀行

琉球新報社

沖縄県企画部

団体名 50 音順

地域づくりのための助成事業活用シンポジウム 参加者アンケート結果

参加者総数 132名
アンケート総数 37名 回収率28%

設問

ア) 回答者の所属団体

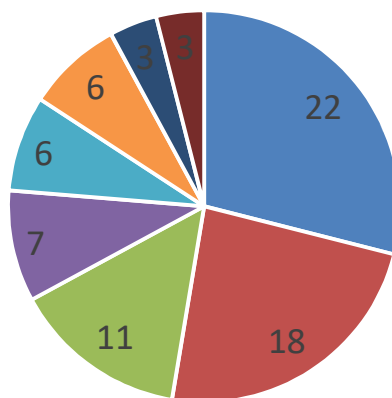
所属団体	件数	%
行政・団体	11	29%
NPO	9	24%
任意団体	8	21%
自治会	4	11%
その他	3	8%
大学・教育関係	2	5%
企業	1	3%
合計	38	100%



■ 行政・団体 ■ NPO ■ 任意団体 ■ 自治会 ■ その他 ■ 大学・教育関係 ■ 企業

イ) 所属団体の地域づくり活動分野

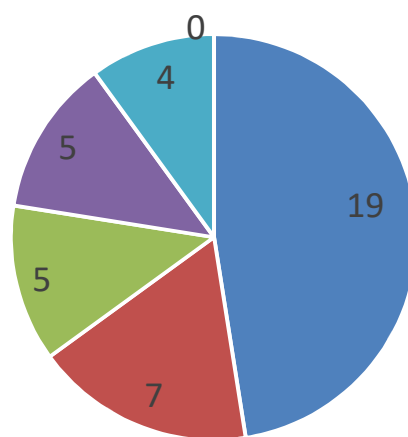
地域づくり分野	件数	%
福祉	22	29%
まちづくり	18	24%
教育	11	14%
文化	7	9%
自治会	6	8%
防災	6	8%
環境	3	4%
その他	3	4%
合計	76	100%



■ 福祉 ■ まちづくり ■ 教育 ■ 文化 ■ 自治会 ■ 防災 ■ 環境 ■ その他

ウ) シンポジウムがあることをどのようにして知ったか

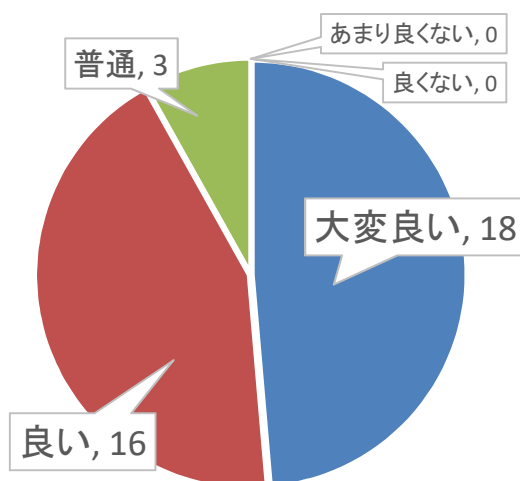
広報	件数	%
主催者連絡	19	48%
知人	7	18%
SNS	5	13%
その他	5	13%
主催者HP	4	10%
新聞	0	0%
合計	40	100%



■ 主催者連絡 ■ 知人 ■ SNS ■ その他 ■ 主催者HP ■ 新聞

エ) シンポジウムの内容

内容	件数	%
大変良い	18	49%
良い	16	43%
普通	3	8%
あまり良くない	0	0%
良くない	0	0%
合計	37	100%



「大変良かった」と回答した人のコメント

- ・申請のノウハウが学べたこと。
- ・助成金を利用させていただいて何度かイベントを開催させていただきましたが、申請書の書き方には何回悩まされていました。今回、助成していただく側の想いを知ることができましたので、ポイントをしっかりおさえて申請書を作成していけるとと思います。とてもわかりやすい内容でした。ありがとうございました。
- ・このように横断的に県内の助成を紹介してくださる機会がなかったので。
- ・助成金(各団体)の説明もあつたらもっとよかったです。
- ・事例報告が各々の活動内容詳細が聞けてよかった。

・助成先と受け手と一緒にあって事例を発表することで、それぞれの思いを知ることができました。助成を受けたら、それっきりというこれまででしたので、その先どのようにこの助成をいかし、成長できたか、一度きりだけでない助成側と受け手側の関係づくりを知ることができた。

・活動を持続するために、財源の確保、調達は現実的問題です。会員を増やす、会費の値上げ、自主財源を生むチャリティーなど工夫していますが、特効薬にはならない。財源活用の手法として昨今、あちらこちらで「助成金の活用」が叫ばれるなかで、安易な応募ややもすると「お金頼み」の活用目的になっていないか考えさせられました。何のために、何をどのように。意識は大事ですね。今回は、助成する側、される側、異なる立場から事例報告はとても参考になりました。

・助成金については、これまで名前だけで内容が良く分からなかったのが助成金の申請の仕方や審査が通りやすい申請書の内容がどういったものが分かりました。

・助成金の申請や報告等よく判らずやらない方が楽だともありましたが、主催者の皆様の思いもよく判りやはり沖縄の地域のため、自分たちの地域のため今後どのようにつなげていくか勉強になりました。

・活用できそうな助成事業があるのを知ったこと。助成を活用した団体の事例が聞けたこと。資料から現在の活動運営について参考にできることが入手できたこと。

「良かった」と回答した人のコメント

・事例紹介の時に資金の使い道まで話してもらえたら良かった。

・沖縄の未来につなぐ。

・実際の助成先の事例を基に話しが広がっていったので理解しやすかった。

・鈴木さんのお話がわかりやすく、申請書を作る上でのコツが良く理解できた。

・いろんな助成金活用が聞けた。

・助成事業が身近に感じました。

・助成金申請のノウハウを知ることができて、これから申請の際参考にしようと思った。

・社協は、行政からの補助金も少なくなるうえに、会費や募金も減少状況の中にあります。地域の各種団体やボランティアの育成をかねて、助成金を利用できればと考えています。今日参加して、助成金が沢山あることがわかったので、ネットで調べてみたいと思います。

・助成金を出す立場として考える視点を改めて確認できた。また、新しい考えを学べた。

・申請書を作成する時のポイントが良くわかった。自分たちの団体の活動について、整理しなけばならないと感じた。情報量は多かったが理解しやすい内容だった。

・いろんな活用方法があると知れた。申請のポイントが知れてよかった。

・もう少し事例を多く聞きたかった!! 名刺交換会など!!

・鈴木様の講話、非常に聞きやすく、分かりやすい内容でした。

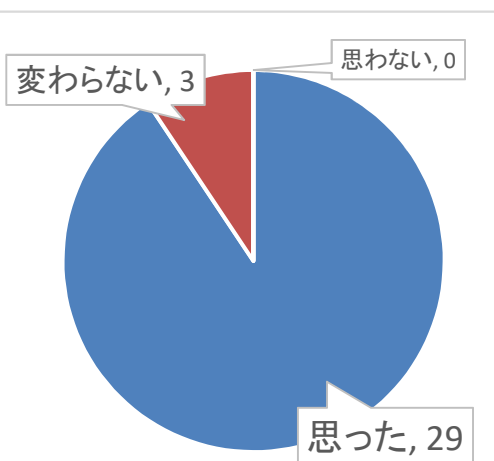
・助成する側の考え方が勉強になった。

「普通」と回答した人のコメント

- ・事例報告がもっと欲しい。
- ・県内の助成事業をまとめた情報を得られたことは有益であった。

オ) シンポジウムに参加して助成事業を利用してみたい、応募しやすくなったと思ったか

助成事業利用したい	件数	%
思った	29	91%
変わらない	3	9%
思わない	0	0%
合計	32	100%



「思った」と回答した人のコメント

- ・ポイントがわかった。
- ・助成団体の説明を聞いて共に地域の為に働くパートナーだと感じた。
- ・色々な事例があり、話の内容も興味深かった。
- ・事業を行うために必要な資金が準備捻出できない団体としては活用していきたいと思います。
- ・具体的に方向性を示してもらえたように思います。
- ・自社ではまだ収入するのにとまどう、感覚遊具等(児童の療育に利用できないかな?)と感じました。
- ・鈴木さんの講演から、助成金を申請する側のあたりまえ(課題等)は、助成金を出す立場には、あたりまえでない。必要性、説得(伝える力)が必要であることを知った。改めて自分の団体のこと、活動・事業のこと整理したいと思った。
- ・具体的に理解できた。
- ・頂いてばかりで申し訳ないという気持ちがありました。しかし、一方向ばかりの関係ではない事を知ったため。
- ・申請書の書き方にいつも困ってました。今日のシンポジウムを聞いて、記入に手こずることがなくなりました。
- ・お金がないなか、やりたいことをあきらめるのではなく上手く活用することが大切だと感じた。「地域への熱意をしっかりと伝える力をつける」

助成元が助成先に求めている、期待することを知り得たことで応募したい気持ちが高まった。

- ・思ったより助成金が多く、助成団体の間に入り支援してくれる取り組みがあったこと。
- ・助成金活用の意義。活動の方向性を資金というツールを活用して確立に近づけることが明確になりました。
- ・現在は、大学に通っている身ですが、卒業後数多くの経験をした後に、事業の立ち上げをすることもある際には、利用してみたいと感じました。
- ・自治会で1年目です。最初は何も判らず色々教えて頂きながら大変という思いがつよかったのですが、よく指導・助言を頂き、又今回のシンポジウムで更に理解もよくできたと思います。又頑張っていきたいと思います。
- ・改めて自分たちの組織の整理をすることが助成金活用にもつながると感じました。

「特に変わらない」と回答した人のコメント

- ・助成金を出す立場のため

カ) シンポジウムに参加して気づいた点や学びなど

- ・様々なとりくみがあるのだと知りました。
- ・ポイントや、よいこと・よくないことをまとめたい。
- ・沖縄の地域の為に活動している方々の熱意や活気を感じられた。
- ・新しい視点が得られたこと。
- ・助成金事業実施後の課題を見直すことの必要性。申請書の書き方は特に「ぐっとくる申請書」を心がけていきます。
- ・今回は成功例の発表はありましたが、失敗例の発表はなかったので、今後はあるといいのかなと思いました。(うまくいかなかった点等をまとめて)
- ・次回(または別の機会に)申請書作成例を学べるとより参考になると思います。
- ・さまざまな助成金がある事を知った。
- ・事業と助成側のマッチング
- ・TOYOTAさんの助成について、事例を通して、もっと知りたいと思った。しらべる助成、ニーズを知るための助成、Home pageで詳しく調べたいと思います。
- ・知らない制度がたくさんあると思った。
- ・申請書に必要な点、事業の継続性もうまく考えなければならない点。また成長させる為の助成金としての考え方等
- ・採択されるポイントを知ることができた点
- ・会ができて20年になりマンネリ化している所も多々ありました。皆様のお話を聞き、はじめに会に携わった時の気持ち、想い、同じ病気の方々へ力になりたい。その想いが再び出てまいりました。
- ・質問タイムも質問に的確に答えられて、わかりやすかった。
- ・助成金活用についてチームみんなが意思統一することが大切だと思いました。

・お金がないために、活動ができなかったり、充実につながらないという課題を払拭することができた。今後は社会が生き活きするために積極的に助成金を活用していきたい思いになった。

・事例を多く聞くことができた

・まちづくりに関心を寄せる方々がこんなに多くいらっしゃるのだと来場者の顔ぶれをみて心強くなりました。

・進行の方がおっしゃっていた様に情報量は多かったのですが、分かりやすく申請書の良い書き方と悪い書き方が例で出され理解しやすかったです。

・維持、継続してゆくためという考え方もありましたが、新しい視点でとりくみ、やっていくことで気づきがあったり、発見があったりできるということ。とてもむつかしく考えたこともありましたが、基本自分たちの地域をどういう風にしてゆきたいか想いをもっていれば、後はそれ程むつかしくないかとも思いました。失ったもの、失ってはいけないの等、大事なことを皆で考えてやってゆきたいと思います。

・基調講演がとても良かった。今後グループを運営していく上での気づきや学びがとても多かった。

・1団体で地域の事業を作っていくのではなく、他団体と協働で行うこと。地域で自分たちが担うべき役割をはっきりすることが地域の発展につながる。

キ) 会場、運営、進行、その他改善点など

・いつも一つ一つの助成先情報へといあわせしていたので、一括で話しがきける機会があって良かったです。

・もうすこし、質問、Q&Aがききたかった。

・1つのブースで相談させて頂きました。感謝。

・講義の内容が分かりやすかった。

・継続開催を希望します。可能ならば北部地域や離島での開催ができるようになるといいなと思いました。

・とても分かりやすく良かったです。長い時間ありがとうございました。

・民間だけでなく行政の助成情報提供の場も設けていただけるとありがたいです。

・事例発表は、もう少し具体的な内容が知りたかった。(事業内容ではなく)

・会場のあかりがあかるすぎると感じました(個人的に)。活動発表の際には会場の明かりは少し落としていただきたかったかなと思います。発表は団体に時間をきっちり守ってもらうように。後の団体が時間がなくなり大変ふびんでした。前もって発表時間を伝える。発表時にはベルで残り時間を伝えるなど

・とても良かったです。ありがとうございました。

・マイクの音量が大きくなったりして耳がいたかった。事例報告の方法が3団体様々だったので、むずかしいと思うが、発表内容の資料とトヨタ財団の資料がほしかった。

・中味の濃い内容、スムーズな進行はとてもきもち良かった。

・暑い。事例を通して、助成金を活用している団体のブースを作って欲しい。

・事例報告の時間は短いかなと感じましたが、長くすると逆に説明が長くなってポイントがぼやけることもあるのかなという印象を受けました。急ぎ足であっても短い持ち時間のなかでのスピード感がテンポ良い進行につながっていて良かったです。 ありがとうございます。

・イスと机が一緒になっていると記入等がしやすいと感じました。

・中部からです。首里は判りにくく又車も置けないということで少し会場は駐車場広くて場所も判りやすいといいかなと思いました。会場の中はちょうど大きさもいい感じでした。

・後半の事例紹介が、それぞれの団体紹介がメインとなるような進行具合だったと感じます。助成金にポイントをおいて話してもらえるともっと良かった。申請のポイント、書き方、助成を受けての成果や今後についてなど。

・助成金を活用しての事例報告のはずが、団体紹介になっていましたね。

地域づくりのための助成事業活用シンポジウム

実行委員会アンケート結果

参加団体数 14団体
アンケート総数 9団体 回収率 64%

設問 各セッションの評価

セッション1： 助成団体のワークショップ

評 価	件 数
1 大変よかった	6
2 良かった	3
3 普通	0
4 あまり良くなかった	0
5 良くなかった	0
合計	9

「大変良かった」と回答した人のコメント

- ・ 大変勉強になりました。
- ・ 他の助成機関との情報交換や講師からの課題取組等で担当している助成事業の見直しや今後のニーズ把握におけるノウハウを学ぶことが出来た。
- ・ 異なる目的を持った団体の初顔合わせ的なワークショップで、時間的には深まりを求めるには制約があったものの、地域づくりにはいろんな分野があり、いろんな取り組みがあることを少しでも知ることが出来たという事では大変良かったと思う。活動の発展に「縁」は重要である。
- ・ 他の助成団体の活動を知ることができ、自分の団体活動に活かせる点が多くあった。
- ・ 類似の活動をしている団体もあり、今後協働した取組ができる可能性を感じた。
- ・ 各助成団体の課題や悩みを聞くことができた。また、自身の団体の課題や悩みを共有し、助言を得ることができた。
- ・ 自身の団体の助成金の内容を、他の団体の内容と比較することができ、その中でポジショニングを把握することができた。その認識は、助成を受ける側への関わり方を考える基礎になると感じた。培ったネットワークは、助成を受ける側にとって最大のメリットになると感じる。
- ・ 本県民会議の活動範囲が環境保全と限られており、他の助成団体と意見交換する機会がなかった。各団体の状況を伺うことが出来て良かった。また、各団体の活動範囲(高齢者・児童・障がい者福祉、環境保全、文化振興)を超えて「助成事業の活用で地域課題の解決に取り組み、ひいては地域振興に結び付く」という共通認識が持てて良かった。

「良かった」と回答した人のコメント

- ・ 相互交流のきっかけになった。基調講演とワークショップの構成はよかったが、時間の制約もあり、もう少し他の助成団体とも意見交換できる時間が欲しかった。
- ・ 助成を受けている側からの、助成を受けて、どの様に活動しているのか、またその助成金がどの様に運用されているのかの実際のところの声が聞けたこと。どの様に運用されているかは、なかなか経過を知る機会がなかったので参考になりました。
- ・ 他の団体の活動状況やこれからの対応について、確認することができた。
- ・ グループ編成は、同一業種ではなく異業種を混ぜたほうが色々な話を聞くことができた。

セッション2：シンポジウム

評 価	件 数
1 大変よかった	7
2 良かった	2
3 普通	0
4 あまり良くなかった	0
5 良くなかった	0
合計	9

「大変良かった」と回答した人のコメント

- ・ 助成金のあり方を再認識できた。助成金を出す当事者として言いにくい箇所や説明が不十分な所を演者の鈴木さんに代弁してもらったと思う。
- ・ 助成金を出す側と受ける側がいっしょにプレゼンテーションをするのは、双方の地域づくりに対する想いが伝わるよい手法だと感じた。
- ・ 複数の助成要望を受け付ける中で、書類の書き方等助言が出来ていなかったが、書類の書き方やチェックポイント等、個別で対応できない内容を提示して頂いたことで助成希望団体側のスキルアップに繋がった。
- ・ 助成金団体と受ける側が一緒になった活動状況報告ではこれまでにない形式で、助成団体が求めている事業内容や、受けた側の成果・効果を発信する場となり具体的な助成事業の目安となった。
- ・ 講師の話の内容は、これまで沖縄で活動実績のある団体や個人にとっても新鮮であった。特に概念の整理は良かった。印象深いのは、県内でも優れた能力を持った方の使う言葉に「それは共通語として通用しているのか」と問いかけた事であった。共有することの大切さを常に意識している事に感心し、私たちもそういう気遣いが必要であることを認識した。
- ・ 助成を希望する団体向けの内容がとても良かった。
- ・ 助成申請のノウハウを学ぶことができた。
- ・ 基調講演は、大変勉強になった。助成金を助成する側の状況や、申請書の書き方などを細かく説明いただいたので、出席者の方々からは、とても勉強になったという意見を聞くことができた。具体的に、グループに分けて助成金申請書の書き方を指導してみてもどうか。
- ・ 講演がすばらしかった。講師と会場の参加者の交流をもっと増やしても満足度は高まると感じました。
- ・ これまで助成事業に携わりながらもあいまいだった事業の概念について、鈴木氏の基調講演を通じて整理することができた。助成を受けた団体から事例報告を聞くことができたので、大勢の参加者が自分達も応募して活動費を確保できると自分事としてとらえることが出来たのでは

「良かった」と回答した人のコメント

- ・ 前半の基調講演は良かった、後半の事例発表は、もう少し工夫が必要と感じました。
※ 双方（支援側、実施側）で協働している部分（事例）を多めに発表したほうが良いのではないのでしょうか。実施側の事業概要はさらっとで宜しいかと思います。
※ 協働している事例を多く共有することで、参加者の目線合わせが可能になると思います。
- ・ ①助成金とは何の目的であるのか
②助成金の適用（配布の仕方）を具体的にすることができた。
③助成金が社会貢献に寄与していることが理解できた。
④助成金とは、制約（ある程度）がないフリーな支援ができること。

セッション3: マッチング

評 価	件 数
1 大変よかった	4
2 良かった	3
3 普通	2
4 あまり良くなかった	0
5 良くなかった	0
合計	9

「大変良かった」と回答した人のコメント

- ・ 予想より多くの相談を頂いたので良かった。
- ・ 各助成金情報にて参加者自身が選び直接相談出来るブース設置はとても良かったと思う。
- ・ 沖縄の地域づくり団体は、大体において遠慮がちで、結果として情報不足に陥りやすい。会場にもそういう団体が居て「聞かねばわからないよ」と強く背中を押した結果、助成対象となることを知り喜んでいた。遠慮がちな団体は、年齢層が高く地道に活動をしている方々が多いのでこのようなフェイス to フェイスの相談会は今後とも必要と思っている。
- ・ 訪問者3団体、うち1団体が助成金に応募し、入会してくださった。結果に満足している。

「良かった」と回答した人のコメント

- ・ 今回はマッチングに参加していないが、助成を希望する団体が多く参加していること、また、熱心に意見交換をしていたのでニーズはあったと思う。
- ・ 事前にマッチングしたい団体への予約をうける。
- ・ マッチングしたい団体の概要が事前にわかれば、団体にあった説明ができるのではないかなと思う。
- ・ 相談はそんなに多くはなかったが、助成プログラムを知っていただける機会が増えてよかった。応募のしやすさを直接伝えることができた。

「ふつう」と回答した人のコメント

- ・ 時間の制限もあり、各団体のショートスピーチをスキップしたのが残念だった。紹介があれば、各ブースでの問い合わせが増えたのではないかな。
- ・ 当生協の助成金の対象が、ボランティア団体に制約されているため、(助成金の名称も「ボランティア団体援助金」と銘打っています。)参加された方のお役にたてないことがあった。また、助成金の配布時期も、年度末(3月)に限定されているため、次期的にそぐわない状況になってしまった。(ただし、活動を紹介することは出来ました。)

設 問

シンポジウムの準備から本番までのプロセスを通じて、企画書に掲げたシンポジウムのねらい（①助成事業の普及・活用を図る、②助成団体間の情報交換を行う）は、どの程度達成できたと感じましたか。

① 助成事業の普及・活用を図るという点において、どの程度達成できたか

評 価	件 数
1 十二分に達成	1
2 十分に達成	7
3 達成	1
4 不十分	0
5 わからない	0
合計	9

「十分に達成」と回答した人のコメント

- ・（十二分に達成）助成事業の普及・活用を図るに関しては、1団体が応募と入会してくださったので結果が出た。・助成団体間の情報交換について、参加団体全てと会話することはできなかったが、会話できた団体に対しては連携できそうな部分もあり、次につながると期待が持てた
- ・参加人数が130名余を数えたのは成功であった。マスコミ取材があれば普及効果の拡大が図られたと思う。マスコミへの働きかけにもう少し工夫が必要であった。
- ・100名以上多くの参加者が来場され周知啓発に繋がったと思われる。今後は更に開催案内等に工夫を凝らし、今回以上の来場を計画できるのではないかとと思われる。
- ・まずは、初めての取り組みでそこまでできたというのは高く評価されるべき。短い期間での組織を超えた協力関係を築けたことも、今後の発展可能性を感じさせる。もっと多くの参加者があるべきと思うものの、初回としては大成功でしょう。
- ・アンケートの結果を拝見しましたが、9割の方々が満足しているので十分に達成である。
- ・マッチングの時間配分ができなくて対応できない参加者がいました。
- ・中部(うるま市)で開催すれば北部の方も参加できるのではないかと思います。
- ・（個人的な）予想よりもはるかに多くの参加があり、普及という点の達成度は高いと感じます。定例化（年に1度など）することで、より普及を図る活動として充実していくものと考えます。

「達成」と回答した人のコメント

- ・参加された方々は、様々な助成のありがたを知ることが出来たことにより、今後の活動の幅が広がったと思います

② 助成団体間の情報交換を行うという点において、どの程度達成できたか

評 価	件 数
1 十二分に達成	0
2 十分に達成	5
3 達成	2
4 不十分	2
5 わからない	0
合計	9

「十分に達成」と回答した人のコメント

- ・ 悩みを共有できて良かった。
- ・ 自社の基金では対応が難しい案件を横連携できるようになり、実施側へのサポート充実につながる。
- ・ 県内助成金情報や対応方法、ニーズ状況等を共有することが出来た。
- ・ 限られた時間の中で、十分に情報交換ができたと考えます。今回、実行委員会立ち上げに費やした時間を、次回以降、企画や情報交換に活用することで、より充実した内容にしていけることができると感じます。
- ・ 結果が出たので十分に達成したが、情報交換する時間が足りず、全ての参加団体担当者と名刺交換やお話を伺うことができなかった。(進行の都合上、情報交換時間が不足するのは仕方がないと考える。それらの団体とは次回に意見交換したい。

「達成」と回答した人のコメント

- ・ シンポジウムの準備に重点を置いたこともあり、団体間の情報交換する時間は不十分であったが、まずは、各団体の担当者と知り合えたのは良かった。
- ・ 情報交換として、他の助成団体が助成金を提供した団体名を知りたかった。

「不十分」と回答した人のコメント

- ・ それぞれの団体の母体がどのような組織になっているのか、自分の勉強不足ではありますが、良く理解できませんでした。
- ・ それぞれの団体が自分の活動に目が行くのはやむを得ない事ではあるが、地域づくりという視点からはもっと他の団体との連携が必要である。意見を交換していると他の団体への興味や連携については、あまり関心がないように感じた。これについては今後、先行事例などの紹介などを通じて啓発していくことの必要性を感じた。

設 問

次年度以降もこのようなイベントを開催することは意義があるか

評 価	件 数
1 意義がある	8
2 わからない	1
3 意義はない	0
合計	9

「意義がある」と回答した人のコメント

- ・ イベントのみではなく、定期的な会合を持ち、情報交換や合同企画などを行うことにより、団体相互の連携や発展、地域づくりに取り組む関係者のレベルアップに繋がる取り組みになると考える。
- ・ 助成金情報を発信し、周知啓発を促し募集率向上の良い機会になると思う。
- ・ 次年度はもっと広報を強化して準備すると、よりたくさんの団体が参加するものと思います。
- ・ 別の助成団体の活動内容を聞けるため、当県民会議の活動への参考とすることができるほか、助成する側と助成を希望する側との直接的な意見交換により、県民の生の声を聞くことができることから、とても有意義だと考える。
- ・ 助成金を活用する団体には、情報取扱いの場として必要だと思われる。
- ・ 助成金を提供する団体にも、自分の団体の周知活動につながると思われる。
- ・ 助成団体がつながりあうことは、助成を受ける側にとってのメリットとして積み上がるものであり、定期開催とすることでその充実を図っていくことができると考えます。
- ・ 鈴木氏もこのような分野を超えた合同説明会の開催は、全国でも珍しいとのことだったので、継続することで「沖縄方式」として地域に根付かせるために必要だと思う。応募側も応募者側も、情報提供や情報収集の集約を図ることができ、効率が良いと思う。

「わからない」と回答した人のコメント

- ・ これから、勉強していきます。

会場、運営、進行などについての自由意見

- ・ 会場は明るく、スペース的にも余裕があり、良かった。手話がついてくれたのは、すばらしかった。
- ・ 特にございません。
- ・ 会場は、広くもなく、狭くもなく、駐車場の問題もなく最適な空間でした。
- ・ 事務局を担った方々、お疲れ様でした。そして、ありがとうございました。
このように、他社の皆様との助成金のありかたについて、話し合う場はほとんどない状況に置いて、交流出来る事は情報交換の上ですごく意義ある事だと思います。
- ・ 初めての開催で多くの参加者が募ったと思う。また、各助成金事業の広報、周知に繋がったと思う。
- ・ 企画立ち上げの団体が主となっていたが、今後は実行委員会全体で役割分担を行えると良いと感じました。
- ・ 沖縄県内の助成金情報を知る良い機会となった。今後も団体間の情報交換や連携を図れる場となればと思う。
- ・ ラフな運営だったかもしれませんが、逆にその程度のラフさがいいと思いました。
緻密な運営を求めすぎると、実行委員への参加を妨げてしまう。とは言え、準備作業の核となった方々はそれなりの時間と努力をされたものと思います。お疲れ様でした。
- ・ 実行委員会形式で良いと思う。
- ・ 参加者で事務を分担することは良い手法だと思う。
- ・ 開催日(曜日)は、土曜日の開催の方がよいのではないかと思います。
- ・ 事務局の方に負担を集中させてしまいました。申し訳なく感じています。予算も含め、運営の役割分担を平等にできるよう、早めに準備をする必要があると感じました。
- ・ 全体的に、学ぶことがとても多く大変有意義なシンポジウムとなりました。参加させていただいたことに心から感謝いたします。ありがとうございました。
- ・ 会場も駐車場付きで公共交通機関で来場しやすい施設で良かった。参加団体の皆で会場設営も行ったのでマンパワー不足を感じなかった。進行も滞りなく、スムーズで良かった。
- ・ 課題として、今回は開催運営費を地域づくりの助成金で全額まかなえたと聞いているが、次回以降助成金がなくなった際に、各団体で負担金を出して開催ということになれば、当団体の参加は難しいかもしれない。他の団体はどうなのか。



【午前のセッション】

鈴木氏から「沖縄にある助成機関だからこそ沖縄の未来のためにできること」とのテーマで講話を頂いた。



【助成団体のワークショップ】

鈴木氏の講話を受け、グループディスカッションを行った。

問い：沖縄の助成機関として、次の3年で特に大事にすべきテーマとは？ 支援対象とは何か？（今日は個人の立場で☆）



19

- ・ **我が助成機関はナニモノで、何を目指していくといいのか**
 - 設立者、設立趣意書、これまでの歴史の振り返り：お互いに探究するも◎
 - 理念や方向性みたいなものを助成機関内で再確認・議論するのも一案
 - 当助成機関は次の3年を通じて「沖縄の〇〇への支援を通じて、沖縄を〇〇にしていく」※3年以上を決めるのはお勧めしない／社会の動きが早い
- ・ **財源そのものは動かせない？ 逆にいえば確保されている？**
 - 既存の分野から大きく変更
 - 既存の分野に加えて、一部を変更／新設
- ・ **沖縄を大切に考える助成機関として、助成機関だから出来る事！**
 - 地理的分布、テーマ的や支援先の対象団体の分布、出来れば財源規模、どのような資金が地域に提供されているのか？ 少なくとも、民間の助成機関側の流れだけでも見えてくるとすごく大きい！ テーマの違いは豊かさとか力！
 - 地域の財団等による支援メニューにおいて、抜け漏れはどこか？
 - 現場団体の動向、NPO法人格限定であればテーマ毎の数は見えてくる
 - 「成長痛」のカルテはだいぶ蓄積済み：沖縄的な文脈の調整で精度は向上
 - 地域の何が課題で、どの分野に支援が必要なのか＝どの地域も盛り沢山
 - 助成機関同士がこの分野は連携強調しながら、試行的に集中投下をしてみたらどうか？ → 日本でかつてない取組み＝民間助成機関の掛け算

【鈴木氏のスライド】

「沖縄の助成機関として次の3年に大事にすべきテーマ」について提案を頂いた。



【午後のシンポジウムの様子】

まちづくり、伝統文化、福祉、環境、教育、公民館活動、定住促進、観光・交流、コミュニティビジネスなど、地域づくりに関わっている、様々な関係者 130 人余りの参加があった。



【参加者からの質問】



【事例発表1】

りゅうぎんユイマール助成会と子ども応援団笑びんの発表。
笑びんでは、助成金を活用して制服のリユース活動に取り組んでいる。



【事例発表 2】

沖縄県文化振興会と Team Spot Jumble の発表。

Team Spot Jumble からは、芸術をととした教育、福祉、企業研修などの取り組みが紹介された。



【事例発表 3】

沖縄県地域振興協会と羽地ネットワークの発表。

羽地ネットワークでは、助成金を活用し、住民参加のもと羽地集落のガイドマップを作成した。



公益財団法人助成財団センター 代表理事田中氏の挨拶と助成財団センターの紹介。



トヨタ財団助成プログラム
「調べる助成、育てる助成」の
紹介



個別相談会の様子



あなたの日頃の活動を応援してくれる！

地域づくりのための 助成事業活用シンポジウム

沖縄の地域づくりのために、地元の助成団体とNPOや地域づくりに取り組む団体とが出会う合同説明会です。県内の助成事業プログラムが集結し、各団体の助成金の趣旨や特徴、申請のコツやヒントが学べます。沖縄の地域づくりのために一緒に取り組みませんか。県外からは、トヨタ財団が参加します！

参加予定助成団体など

沖縄県地域づくりネットワーク、おきなわアジェンダ21県民会議、沖縄県企画部、(公社)沖縄県地域振興協会、社会福祉法人沖縄県共同募金会、社会福祉法人沖縄県社会福祉協議会、(公財)沖縄県文化振興会、沖縄銀行、琉球銀行、沖縄ろうきん、コープ沖縄、沖縄子どもの未来県民会議、琉球新報、(公財)みらいファンド沖縄、トヨタ財団

2018年 7月8日(日) 13:00-17:00 (受付開始：12:30～)

会場

沖縄県総合福祉センター ゆいホール

沖縄県那覇市首里石嶺町4丁目373-1

助成財団等との名刺交換交流会あります！

対象

NPOやNPO法人、ボランティア団体、自治会、地域づくり団体、県内のNPO中間支援団体及び助成団体、企業、県や市町村の行政関係者、企業のCSR関係者等

定員

150名(参加費：無料)

参加申込方法

下記サイトより参加申込入力ください。

<https://goo.gl/forms/PN1agWoXRThb106E2>

QRコード

沖縄県地域振興協会(富永) TEL：098-862-9390

■主催 地域づくりのための助成事業活用シンポジウム実行委員会

■構成団体 沖縄県地域づくりネットワーク、おきなわアジェンダ21県民会議、沖縄県企画部、(公社)沖縄県地域振興協会、社会福祉法人沖縄県共同募金会、社会福祉法人沖縄県社会福祉協議会、(公財)沖縄県文化振興会、沖縄銀行、琉球銀行、沖縄ろうきん、コープ沖縄、沖縄子どもの未来県民会議、琉球新報、(公財)みらいファンド沖縄

地域づくりのための助成事業活用シンポジウム プログラム

開 会 13:00- 主催者あいさつ

第1部 基調講演

「助成金を出す立場から、助成金の活用する皆さんに伝えたい5つのこと」

鈴木祐司さん（公益財団法人地域創造基金さなぶり 専務理事/事務局長）



2001年～2006年：現 Panasonic 株式会社、「子どもサポーターズ☆マッチング基金」の企画・運営の担当責任者（5年計3200万円）など、その他助成プログラムの企画・運営を多数担当。
2011年4月2日：山形空港経由で仙台入り。緊急救援活動（宮城県内の避難所支援）に従事。2011年5月1日：本財団の設立業務に従事し、2011年6月より常務理事、2013年4月より現職。一般社団法人 全国コミュニティ財団協会・副会長

第2部 助成金を活用して成果をあげた団体からの事例報告

(1) 琉球銀行 りゅうぎんユイマール助成金

子ども応援団 笑びん

沖縄市パークアベニュー内で制服リユースを通じて、沖縄の子供たちが元気に成長していく姿を応援することで、中学・高校生の制服を収集し格安で提供する活動を行っている。

- ・森田好美さん（子ども応援団 笑びん 代表）
- ・宮城さん（琉球銀行 総合企画部 地域貢献室）

(2) (公財) 沖縄県文化振興会 沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業 TEAM SPOT JUMBLE(TSJ)

2011年度より学校等教育現場でのコミュニケーション能力の向上などに資する目的で「演劇ワークショップ」に取り組んでいる。

- ・喜舎場 梓さん（TEAM SPOT JUMBLE）
- ・さん（(公財) 沖縄県文化振興会）

(3) (公社) 沖縄県地域振興協会 地域活性化助成事業 事業名「風水のまち並みの保全と地域活性化事業」

- ・運天 琴乃さん（一般社団法人羽地ネットワーク 理事）
- ・西銘 史則さん（(公社) 沖縄県地域振興協会 地域活性化推進員）

第3部 情報提供

- ・トヨタ財団助成プログラム「しらべる助成」「そだてる助成」紹介
- ・参加助成財団の紹介

閉 会 閉会の挨拶（16:00 終了）

助成財団等との名刺交換交流会 16:00-17:00